

特別展「桑山玉洲のアトリエ—紀州三大文人画家の一人、その制作現場に迫る—」
博物館講座レジュメ

於：和歌山県立近代美術館 2階ホール

アトリエを通して見る桑山玉洲

和歌山県立博物館
学芸員 安永拓世

はじめに

◆桑山玉洲とは

◇桑山玉洲 (1746～99)

紀州三大文人画家の一人。和歌浦で廻船業・両替商を営む家に生まれる。名は文爵・嗣幹・嗣繁・嗣燦。字は明夫。号に玉洲・珂雪堂などがある。家業の廻船業では、江戸や神奈川に出店を持つ富裕な商家であったようだが、出店の火災や持船の難破により大きな被害を受けたとされる。若くして家業を継ぐかわら、新田開発などの開墾事業にも着手した。絵は、はじめ江戸に出て狩野派などの諸名家を訪ねたらしいが、良き師にめぐりあえず、ほぼ独学で学んだとみられる。中国の明や清の書画や扇面を集めて古画から多くを学んだようで、初期の作例には、18世紀に来日した中国人画家の沈南蘋(1682～?)の画風や、中国絵画や朝鮮絵画からの影響もみられる。のちに、大坂の文人・木村兼葭堂(1736～1802)や京都の画家・池大雅(1723～76)などとの交流を通して独自の画風を確立し、郷里の紀州で絵画制作を続けた。また、『絵事鄙言』などの優れた画論を著し、池大雅から学んだ絵画理論を世に示したことでも知られる。

◆桑山家旧蔵資料の発見

◇玉洲の分家に伝来

玉洲没後、桑山家に長く伝来していた資料が、ほぼ一括で、分家筋の旧家へと伝来

◇資料の内訳

- ①書画
- ②画材道具
- ③印章

①②③がともに一括で発見される事例は、全国的に見ても、きわめて珍しい
⇒桑山家旧蔵資料から玉洲に迫る

1. 玉洲旧蔵の書画

◆選別の必要性

◇資料の伝来経緯

- ①玉洲旧蔵資料……玉洲自身が所蔵
- ②桑山家旧蔵資料…玉洲の子孫の桑山家が所蔵
- ③分家所蔵資料……分家が所蔵
→現状では、この三者が混在

◇選別の方法

玉洲旧蔵資料と桑山家旧蔵資料については、資料に記された為書や所蔵印などによって、ある程度の選別が可能

◆玉洲旧蔵資料の選別

◇為書

「墨竹図扇面 鶴亭筆」【54】…「甲午秋應需／栞山氏／雀亭光寫」 安永3年(1774)

◎鶴亭(1722～85)…長崎出身の黄檗宗の僧侶で画家

「山水図 長町竹石筆」【59】…「戊午小春寫似／玉洲先生 正／長徽」 寛政10年(1798)

◎長町竹石(1757～1806)…讃岐出身の文人画家

◇所蔵印(本紙)

「墨梅図 蔡簡筆」【8】…「明光浦桑嗣祭家蔵印」(白文長方印)

◎蔡簡(生没年未詳)…中国の清時代の画家で黄檗宗の僧侶カ、1657年時点で来日

「墨竹図 李用雲筆」【23】…「明光浦桑嗣祭家蔵印」(白文長方印)

◎李用雲(生没年未詳)…中国の清時代の画家、1725年ごろ来日

「山水図扇面画帖 伊孚九筆」【22】…「玉」「洲」(朱文連印)

◎伊孚九(1698～?)…中国の清時代の画家、貿易商

1720年から1747年の間に7回来日

「法元人筆意山水図 宋紫岩筆」【24】…「明光浦桑嗣祭家蔵印」(白文長方印)

◎宋紫岩(?～1760)…中国の清時代の画家、絵を売るため1758年ごろ来日、

1760年に長崎で没

◇所蔵印(外題・箱)

「朱竹図 雪儼筆」【16】…「幽興堂」(朱文長方印)、「玉」「洲」(朱文連印)、

「明光浦桑嗣祭家蔵印」(白文長方印)

◎雪儼(生没年未詳)…中国の清時代の画家カ

◇箱書

「梅花書屋図扇面 杜垣筆」【12】…「栞嗣燦瓊蔵 勸耕舎」

◎杜垣(生没年未詳)…中国の明時代の画家

「墨梅図 蔡簡筆」【8】・「花鳥図 伝暉寿平筆」【21】…「玉洲先生／遺愛」

◎暉寿平(1633～90)…中国の清時代の画家

「牧童図 劉輝筆」【14】…「玉洲先生遺愛」

◎劉輝(生没年未詳)…中国の清時代の画家カ

「唐子遊図 諸葛晋筆」【15】…「玉洲先生／遺愛」

◎諸葛晋(生没年未詳)…中国の清時代の画家、1748年に来日

◆玉洲旧蔵関連資料の内訳

◇玉洲旧蔵資料

中国書画 10件

日本書画 2件

◇桑山家旧蔵資料

中国書画 2件

日本書画 10件

◇その他(分家所蔵資料)

中国書画 0件

日本書画 30件

◆玉洲が集めた扇面書画

◇『桑氏扇譜考』

安永9年(1780)の奥書、玉洲35歳

玉洲自身が収集した明清の扇面書画について記録した自筆本

◇『桑氏扇譜考』とのかかわり

「梅花書屋図扇面 杜垣筆」【12】 = 「杜垣 著色梅花書屋図」(『桑氏扇譜考』)

「墨梅図 蔡簡筆」【8】 = 「蔡簡 墨梅」(『桑氏扇譜考』)

◆玉洲の画業への影響

- ◇「梅花書屋図扇面 杜垣筆」【12】
→「梅花書屋図 桑山玉洲筆」【13】 安永4年(1775)春、玉洲30歳
- ◇「墨竹図扇面 鶴亭筆」【54】
→「風竹図 桑山玉洲筆」【55】
- ◇「墨梅図 蔡簡筆」【8】
→「墨梅図 桑山玉洲筆」【10】
- ◇「朱竹図 雪儼筆」【16】
→「朱竹図 桑山玉洲筆」【17】
- ◇「山水図扇面画帖 伊孚九筆」【22】
→「熊野奇勝図巻」の「大嶋図」 寛政6年(1794)、玉洲49歳
→「富岳図襖 桑山玉洲筆」(念誓寺蔵)【44】
- ※「羅漢渡水図巻 逸然性融筆」(神戸市立博物館蔵)
→「渡水羅漢図 桑山玉洲筆」(和歌山県立博物館蔵)【5】
◎逸然性融(1601~68)…長崎で活躍した黄檗宗の僧侶で画家

◆玉洲の画論への影響

- ◇『玉洲画趣』
北宗…南蘋、費漢源、熊斐、鶴亭
南宗…伊孚九、宋紫岩
- ◇『絵事鄙言』
長崎ニ来レル清人ノ中ニテ賞スヘキ者ハ伊孚九カ山水、李用雲カ墨竹ナルヘシ。其余ハ董可亭カ墨蘭、諸葛晋カ兒女ナト頗ル雅趣アリ。南蘋ハ舶来第一ノ画品ナレトモ北宗ナリ。又民間ニ蔵スル所、多ク贋作或ハ代筆ニテ真蹟至テ得難シ。高鈞、鄭培、費瀾、方濟ノ輩風致亦乏カラス。

2. 玉洲所用の画材道具

◆伝来の状況

- ◇一括の資料として伝来
桑山家旧蔵書画や、桑山家旧蔵印章と同様、一括の資料として伝来
「山水人物図蒔絵箱」に収納されて伝来

◇峻別は不可能

玉洲所用なのか、その後の桑山家所用なのか、書画のように細かく区別できない
→玉洲以降の道具も一部含むとみられるが、伝来の状況から玉洲旧蔵の可能性は高い

◆画材道具の内訳

- ◇山水人物図蒔絵箱
- ◇墨
- ◇木製円形五種入子絵具箱
- ◇木製箱入方位磁針
- ◇印泥
- ◇墨・絵具収納小箱
- ◇絵具
- ◇桑山家歴代所用印章
- ◇方形絵皿・円形絵皿・真鍮製水盂
- ◇飛鶴文蒔絵月日貝文鎮

◆もう一つの画材道具

◇絵具

◇筆

◇絵皿

◆画材道具の比較

3. 玉洲所用の印章

◆伝来の状況

◇一括の資料として伝来

桑山家旧蔵書画や、画材道具類と同様、一括の資料として伝来
合計23顆31面が、「花鳥文箱」に収納される

◇所有者の峻別は可能

雅号などから、所用者をある程度は峻別することができる

◇玉洲以外の印章も含む

玉洲以外にも玉洲の妻である君婉くんえんの印章などを一部含むが、所用者不明の印章もある

◆印章の内訳

◇桑山玉洲所用印

16顆22面

◇桑山君婉所用印

3顆3面

◎桑山君婉くわやまくんえん(?~1828)…玉洲の妻

◇桑山曦亭所用印

1顆1面…玉洲所用印の裏面

◎桑山曦亭くわやまぎてい(1774~1806)…玉洲の二男

◇八田梅園所用印

2顆2面…うち1顆は玉洲所用印の裏面

◎八田梅園はったばいえん(1767~1850)…紀州で活躍した文人画家

◇所用者不明印

3顆3面

◆印章が残される意義

◇画家が一番大切にしているもの

◇印影からはわからないことが判明

複数の印面がある印章

一つの印章に所用者の異なる二面が彫られる

おわりに

◆制作現場のタイムカプセル

◇何を集め、何を学んだか

◇どんな道具を使ったか

◆200年前の玉洲のアトリエを体感

◇元ネタの絵と、玉洲の絵を比較できる

◇使いかけの道具が、玉洲の息吹を伝える

◆他の資料との関連性

◇玉洲の菩提寺である宗善寺そうぜんじの「書画貼交屏風」しょがはりまぜびょうぶ

◇玉洲の肖像画の古写真も再発見

◇篆刻家である高芙蓉こうふようの書を彫った扁額へんがく

◎高芙蓉(1722~84)…甲斐出身で、江戸時代中期を代表する篆刻家